

令和5年度看取り介護実施報告

(1)概況報告

面会制限がある中、終末期に入ってから居室面会を促し家族との時間を過ごしてもらったが、急変によりタイミングが合わず、間に合わないケースもあった。

退所者のほとんどの方が看取り介護の方で、近年、看取り介護を希望される方が増加傾向である。

(2)看取り介護実施状況

①看取り介護実施件数

・R5年度退所 25名(医療希望 1名・病院で死亡1名・看取り介護にて死亡23名)

②R5年度看取り介護を実施した入所者

	性別	年齢	介護度	入所年月日	看取り開始日	死亡日
1	女	90	3	R4.6.20	R5.3.11	R5.5.25
2	女	85	5	H30.10.19	R2.1.20	R5.6.8
3	女	81	5	H20.2.27	H26.9.16	R5.7.2
4	女	96	4	H30.7.27	R5.7.18	R5.8.5
5	男	78	3	R4.12.22	R5.7.27	R5.8.6
6	女	98	5	R1.5.14	R2.12.26	R5.8.7
7	女	86	5	H26.5.2	H30.6.22	R5.8.23
8	女	98	5	R3.9.28	R5.7.5	R5.9.7
9	女	86	3	R4.7.5	R5.10.9	R5.10.9
10	男	85	3	H18.10.31	H28.8.4	R5.10.20
11	男	74	4	R4.11.14	R5.4.18	R5.10.21
12	女	96	5	H30.5.23	R3.3.16	R5.10.25
13	女	90	3	R5.11.9	R5.8.30	R5.11.7
14	女	86	5	R4.2.14	R4.3.14	R5.12.24
15	男	92	3	H30.10.19	R5.12.23	R5.12.30
16	女	87	4	H28.12.2	R1.10.19	R6.1.27
17	女	88	4	H30.10.12	R4.3.20	R6.2.1
18	女	81	5	R3.7.12	R6.2.5	R6.2.13
19	女	84	5	H22.11.16	R2.3.20	R6.2.18
20	女	86	5	H31.3.23	R6.2.9	R6.2.20
21	女	97	4	R3.7.30	R5.9.9	R6.3.9
22	女	91	5	H30.9.4	R4.5.10	R6.3.17
23	男	92	4	R2.2.21	R5.3.31	R6.3.28

計 23名(男 5名・女 17名)

(3)看取り介護に対する意見

①家族の声

・天間荘の対応がとても良く、最期がここで良かった。早めの連絡があり、大変感謝しております。

・窓ガラス越し面会をした時には、思っていたより体調が良さそうだなと思っていた。まさか急に亡くなるなんて思わなかった。最期に立ち合いたかった。

・家族や知人など、最期に面会出来て良かった。自分が母をずっと家で看ていたら、自分がつぶれていた。本当に感謝しかありません。

・最後まで口から食べられて良かったです。

- ・コロナでなければ、もっと会えたと思います。出来る範囲で見ていただいて良かったです。連絡をよくして頂いて、安心できました。
- ・歳も歳だからもう仕方ないと思います。ありがとうございました。

②職員の声

介護職員

- ・亡くなる前日に入浴ができ、本人も笑顔があり良かった。本人がもっと好きな物が提供出来たら良かった。
- ・個室に移動してから、職員が居室に何度も訪室してくれていた。クッションを毎日使用し、内出血や皮むけなくケアができた。最期も何名かの職員で看取ることができた。
- ・好きな本を読む時間を持つことはできたり、職員とじゃんけんを行い、コミュニケーションを取ることができた。
- ・食事の食味が悪くなり、スプーンを噛んでしまったり、飲み込みが悪くなって、摂取量が減ってしまったが、フロアで他の利用者や職員と関わりがギリギリまで持てた。
- ・自力で食事ができるようになり、褥瘡もほぼ治るまで状態がよくなることができた。本人の意図を汲み取ることが難しかったが、以前好きだったことを叶えられることは良かった。
- ・本人の希望もあり、ギリギリまでトイレに行く事ができたことは良かった。臥床時間が増え背骨など当たる場所が赤くなることがあったが、早めにベッドマットの交換をすることで、緩和が出来た。
- ・状態低下や身体の拘縮が進行した為、パジャマや前開きタイプの下着へ変更したことで、怪我のリスクも減り、本人も介護する職員も負担が軽減できたと思う。
- ・亡くなる当日まで、周りの利用者と同じ居室で過ごすことが出来て良かった。

看護職員

- ・嚥下機能が低下してから、状態悪化するまでが早く、対応していく大変さがあった。四肢拘縮があり、オムツ交換や入浴等負担があったが、皮膚トラブルはほとんどなく過ごせて、本人にとっても良いことだったと思う。
- ・円滑な看取りの対応ができた。突然急変し、最期となったが、家族と面会する事ができて良かった。
- ・意識レベルの改善なく、看取りとなるが、経過がゆっくりしていた為、家族が看取りを受け入れやすかったのではないかなと思う。
- ・何度も状態低下があり、何度も難しい状態になり回復し、その力に驚きつつも、看護する側に力を与えてくれる方だった。
- ・状態低下が緩やかだったが、コロナ感染により急激に体調悪化したことが残念であった。
- ・コロナ感染中から精神面での不安定さが顕著となり、全身状態の悪化にもつながっていたので精神面でのフォローや他科受診などのアプローチをしても良かったのかなと感じた。
- ・身内のいない方だったが、先生に自分の意思をはっきり伝え、看取り介護を実施できたのが、一番良かったと思う。癌の悪化などで痛みや苦痛をおうことがなかったことが幸いだった。

生活相談員

- ・亡くなる前日までに妹、次男、孫、知人に会い、ギリギリまで意識があった為、反応があって良かった。
- ・少しずつ状態低下していく通常の看取りとは違い、急に亡くなったが、元々、介助されることを

好まず、自分の好きなように生活していた方だったので、最期までそのような生活ができたことが、本人には良かったのかなと感じた。

- ・看取りの同意書を取る際に、亡くなった後のことについて説明ができ、事前に決めておけたので慌てずに進められた。
- ・意思疎通が難しく、苦しさや痛みの訴えなど、表情からでしかわからなかったが、最期は眠るように自然だったので良かった。
- ・個室移動後、毎日家族が面会に来てくれ、本人も何か言葉を言いたそうで、家族との良い時間が過ごせたと思う。
エンジェルケアの際、家族も一緒に入って化粧をしてもらい良かった。
- ・精神的に不安定になり、食事の拒否や急激な体重減少など変化が大きく、話をしても、拒否的なことが多く、精神面で寄り添うことが難しかった。
- ・食事を食べたくない意思がはっきりしており、口が開かない状態を家族に直接見てもらったり、一緒に関わってもらえた。

管理栄養士

- ・元気な頃は意欲的に食事を食べており、最期はゼリー食だったが、介助されながらも食べられる分だけ食べられていて良かったのではないと思う。
- ・自分の好きな物を食べることができたので良かった。
- ・アルブミンが低値だったので、捕食をしてもらっていたが、しっかり食事、捕食共に食べられていて良かった。それでも体重減少が止まらなかったことが課題だと感じた。
- ・水分は元々、あまり好んで飲んでいなかったが、何か飲めるものが見つけられれば良かったと思う。
- ・口が開かなくなってしまうたり、食事時の工夫や時間の管理は必要になっていたが、皆で工夫していったと思う。
- ・低栄養防止の為に、捕食を入れたが、嘔吐などもありあまり食べられなかったことが残念であった。
- ・食事の好みもはっきりされていた為、好みの物を食べられていたと思う。